

経験したから伝えられる。一人でも多くの笑顔を目指して。



健康を守る情熱と実践の伝道師 下村 明魅さん

Profile/1964年八幡東区生まれ。高校卒業後に就職した企業を出産のため24歳で退職。30歳から次々と発症した病気の改善のために、多くの勉強をして食環境の大切さを知る。土佐清水病院の丹羽治療を受け、アトピーを克服。2005年に「無添加ハウス」を設立。会報の発行や数多くの講演や勉強会で「伝える」ことを使命として、情報発信の活動を開催。「アトピーの会」代表。



1.0歳～高齢者まで入れる低温岩盤浴。男性の利用もOK。創生水風呂、化粧品も自由に使え、健康茶のサービスまで至れりつくせり。2.人気のオリジナル商品「健康キルト魔法の布」。下着パッド、美容マスク、首用など種類豊富。ホームページで全国発送中。

『無添加ハウス』

北九州市八幡東区中央2-19-15 2F TEL 090-6424-9910 <http://www.geocities.jp/mutenkahouse2005/>

「まわりに宣言しちゃうと、もうやるしかないでしょ」と、ある計画を教えてくれた下村明魅さんは朗らかに笑う。自分の思いはついに伝え、人の話にはしっかりと耳を傾ける。多くの人の気持ちに寄り添うことができるのは、自らの試練を乗り越えてきたからこそだ。

病気が教えてくれたこと。 たどり着いた答え。

20代までは「健康だけが取り柄だった」という下村さんが、30歳の時、子宮筋腫が見つかった。なかなか改善しない状況に不安を募らせながらも、専業主婦として家事・育児、また、病気入院した母の自営業の手伝いや、続けて病気入院した姉のサポートなど、めまぐるしく過ごしていた。そして、31歳でメニール氏病、さらには32歳でアトピー性皮膚炎を発症。つらい症状に苦しんだ。それを救ってくれたのが、土佐清水病院の丹羽治療だった。子どもが軽いアトピー性皮膚炎だったため、その治療の際に存在を知った。そこで教えられたのは「食環境の大切さ」。ありとあらゆる方法を試した末に、たどり着いた答えだった。

また、食事療法をしながらアトピーと闘う下

村さんが求めたのは、相談できる仲間。「同じ悩みを持つ人同士支え合つことができたら」と、発症した翌年の1997年に「アトピーの会」を発足。「苦しんでいる人に、自分の経験や学んだことを伝え、笑顔を取り戻すお手伝いをしたい」。そんな思いで会報を作り配布していたが、部数が増えるにつれ経費の問題が出てきた。

そこで、「きちんと長く続けるために」起業を決意。治療に必要な健康食品のまとめ買いによる割引で少しだけ利益を出し、それを還元していくことを考えたのだ。そうして、37歳の時、情報を提供をはじめ、体に負担をかけない食品や化粧品、その他商品などを販売する「無添加ハウス」を設立。取り扱うのは、下村さんが実際に使つて良かつたものだけ。だから説得力も安心感もある。□コミを中心に、その輪はどんどん広がった。

かなえた夢とこれからの夢。 実現するのは強い信念とパワー。

2008年に新店舗が完成。岩盤浴や「創生水」風呂と水くみ場も設置した。2011年に初のオリジナル商品「健康キルト」を開発。デリ

ティハウス。「食に対して同じ価値観を持つおばちゃん達と一緒に住んで、家事分担して…と妄想したら楽しくって（笑）。もう公言しちゃったから、やるしかない！」と、いたつて前向きでパワフル。信念が現実になる。成せば成る。下村さんが叶える夢は、さらに多くの人の笑顔を生むだろう。